

**「2017 年度 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校
における国際福祉教育に関するアンケート調査」 報告書**

「2017 度 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校における
国際福祉教育に関するアンケート調査」 報告書

目次

1. アンケートの概要	1
2. アンケートの主な回答内容	1
3. まとめ	5
資料 調査項目	6

1. アンケートの概要

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟国際関係委員会では、国際福祉に関する教育の充実・発展を図ることをめざし、日本における国際福祉に関する教育がどのように導入・展開されているのかを把握するための調査を実施することとなった。

今回は、プレ調査として一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の正会員を対象に、正会員が所属している学校（会員校）における国際福祉に関する教育についての基本的な事項を調査した。

本調査実施時点での一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校は 282 校であり、そのうち 150 校から回答があった（回答率 53.2%）。

なお、国際福祉に関する科目とは次のいずれかに該当するものを指すこととして調査を行った。

- ①海外における福祉課題（途上国における貧困、海外の福祉事情等）に焦点を当てた科目
- ②国内におけるグローバルな福祉課題（在日外国人、中国帰国者等が抱える福祉課題、多文化共生等）に焦点を当てた科目
- ③国境をまたぐ福祉課題（戦争、平和、環境等）に焦点を当てた科目

本調査の実施主体は一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟国際関係委員会、調査期間は 2018 年 1～2 月である。

2. アンケートの主な回答内容

(1) カリキュラム（正課）の中での国際福祉に関する科目の開設状況

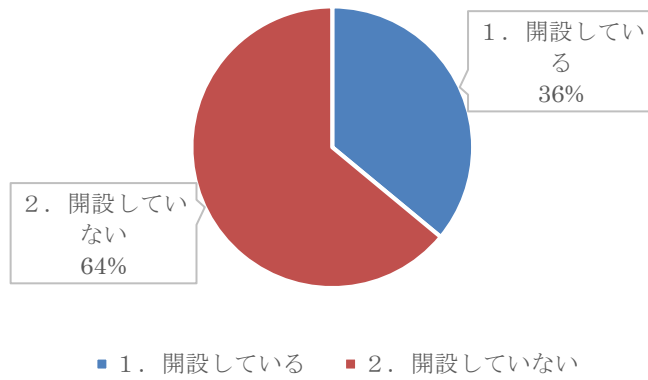
カリキュラム（正課）の中での国際福祉に関する科目の開設状況についての問に対して、「開設している」が 54 件、「開設していない」が 96 件という回答であった。

総開設科目数は 118 であり、そのうち必修科目が 3、選択科目が 114 と、大半が選択科目としての開講であった。

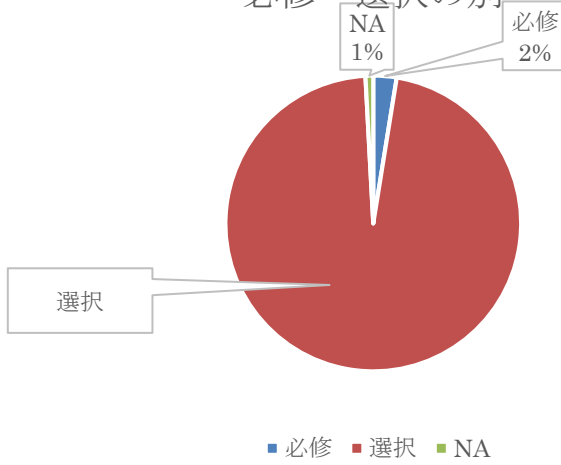
単位数については、1 単位が 12、2 単位が 99、4 単位が 4 で、大半が 2 単位での開講であった。

授業形態については、講義が 80、演習が 10、実習が 13、その他が 14 で、講義での開講が圧倒的に多かった。

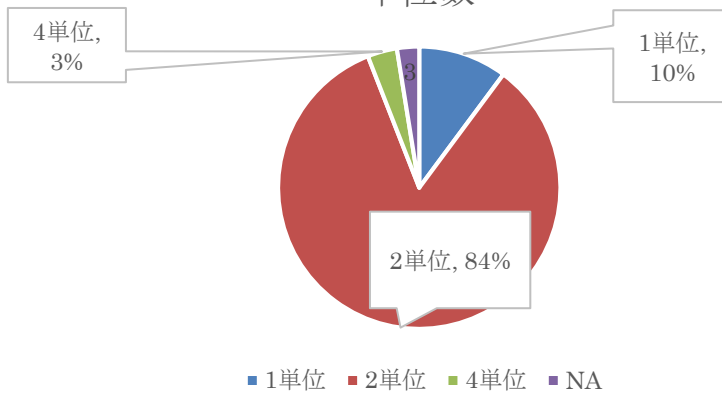
国際福祉に関する科目の開設

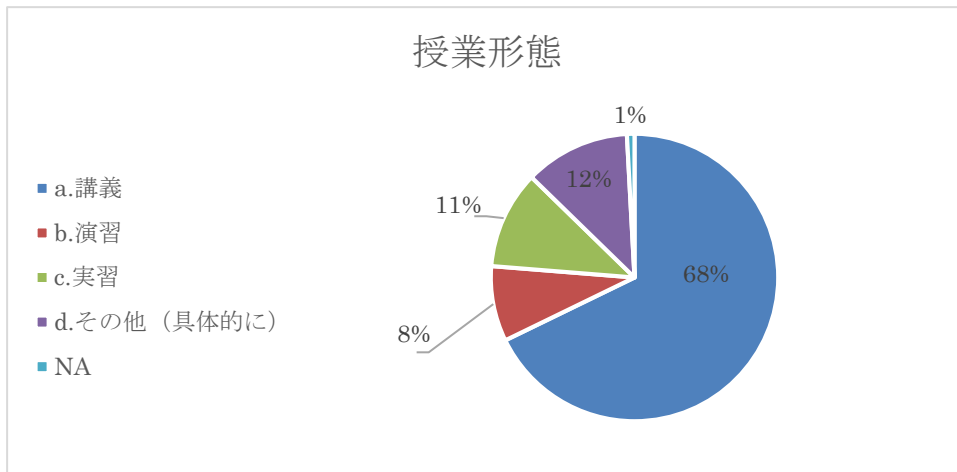


必修・選択の別



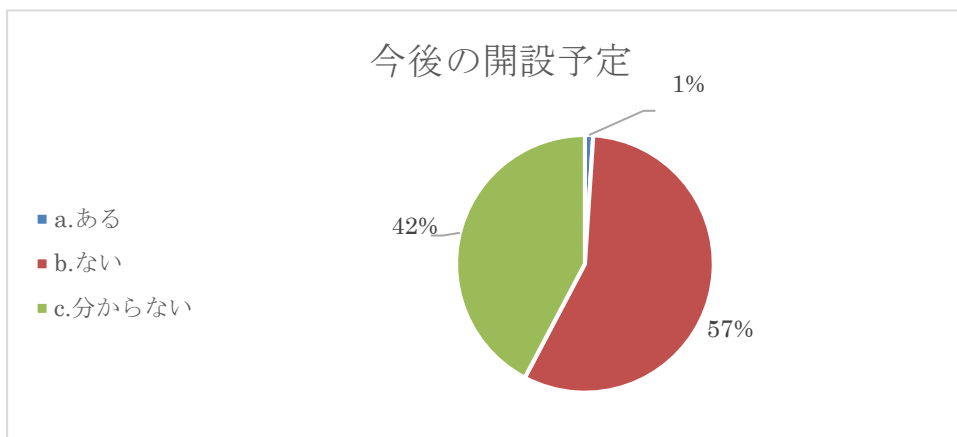
単位数





(2) 今後の開設予定

国際福祉に関する科目を「開設していない」と回答した回答者を対象に今後の開設予定を問うたところ、開設の予定が「ある」が1件、「ない」が55件、「分からない」が41件であった。



(3) カリキュラム（正課）以外の国際福祉に関する教育プログラムの状況

全回答者を対象にカリキュラム（正課）以外の国際福祉に関する教育プログラムの状況を問うたところ、「ある」が19件（検討中1件を含む）あった。

なお、その教育プログラムの内容として、次のような回答があった。

- ①海外での実習
- ②海外の大学での授業の受講・聴講（単発、留学）
- ③海外研修・海外視察
- ④国内外での海外の学生との交流
- ⑤海外での語学研修
- ⑥世界ソーシャルワークデイを意識したプロジェクトの実施

- ⑦国内での外国につながる保護者への支援
- ⑧インターネット上の教育プログラム

(4) 国際福祉に関する教育についての意見等

国際福祉に関する教育についての意見等を伺ったところ、①アンケート結果の報告に対する期待、②国際福祉に関する教育の必要性・重要性、③国際福祉に関する教育を推進していく上での課題についての意見、④国際福祉に関する教育に対する方向性の提示への期待、⑤国際福祉に関する教育の中身についての意見の5つに大きくまとめることができた。

「①アンケート結果の報告に対する期待」については、関心の高さから本アンケートの結果を何らかの方法で報告してほしいという内容であった。

「②国際福祉に関する教育の必要性・重要性」については、国際福祉に関する教育の必要性や重要性が指摘されており、その中には、社会福祉士養成カリキュラムに国際福祉に関する教育を含める必要性や、海外での実習の重要性を指摘するものが含まれていた。

「③国際福祉に関する教育を推進していく上での課題についての意見」としては、第1に、国際福祉についての概念・用語が統一されていないことや、そのことと関連して概念・用語を慎重に使用する必要性についての指摘があった。第2に、国際福祉に関する教育を行うことの時間や人材（教員）などの面での限界や難しさが指摘された。そのことの裏返しとして、大学側のサポート体制を充実させる必要性も指摘された。第3に、資格の国際共通化、カリキュラム等の統一や単位互換など、社会福祉の実践や教育におけるグローバル化への対応を求める指摘があった。その他、国際的な視点の重要性や影響力に対する認識不足、海外に興味を持っていない学生が多いといった指摘もあった。

「④国際福祉に関する教育に対する方向性の提示への期待」については、国際福祉に関する教育をどのように行えばいいのか方向性を示してほしいという期待である。

「⑤国際福祉に関する教育の中身についての意見」としては、「内なる国際化」に対応できる人材やグローバルな舞台で活躍できる人材を養成する必要性についての意見があった。その他にも、「ニューカマーのくびとの文化的差異に焦点をあてがちであった既存の多文化ソーシャルワークだけでなく、グローバル定義で触れられているような植民地主義やレイシズム等といった構造的な問題を捉える視座を提供するようなものが良いのではないだろうか。また、人身取引等トランスナショナルな対応が迫られている問題にコミットできるような内容も必要であると考え。」といった指摘もあった。

(5) 本アンケート調査に対する意見、感想等

本アンケート調査に対する意見、感想等を伺ったところ、①国際福祉に関わる教育について考える機会がなかったためアンケートが意識喚起になったといったアンケートの意義を認める意見、②国際福祉に関する教育について、教育組織だけでなく、専門職組織とともに検討していく必要性、③連盟の内外での国際ソーシャルワークに係る議論の活発化につながることへの期待、

④関連カリキュラムの標準化につながることへの期待、⑤国際福祉についての概念・用語について共通認識がない中でのアンケートに対する疑問、⑥国際福祉に関する教育についての教育内容・方法等の教示・情報提供への期待、⑦「科目ごとにどういったテキストや参考文献をあげているかを加えていただくと、より一層興味深い結果になったと思います」といった調査項目についての意見の7つに大きくまとめることができた。

3. まとめ

本調査の結果、カリキュラム（正課）の中で国際福祉に関する科目を開設している学校は、回答のあった学校のうちの3分の1程度にとどまるなど、国際福祉に関する教育が活発に展開されているとは言い難い状況にあることが明らかとなった。

一方で、国際福祉に関する教育の必要性や重要性を指摘する意見もみられた。

本調査の結果を踏まえると、国際福祉に関する教育を充実・発展させていくためには、国際福祉についての概念・用語の統一に向けた検討や、国際福祉に関する教育についての教育内容・方法の検討、これらの検討結果の共有が課題としてあり、その課題への対応においては、連盟内での議論や情報交換を活発に行うことにとどまらず、専門職組織等とともに検討していくこと、そして、国際福祉に関する教育の実態を把握するための本格的な調査を実施することが重要であると考えられる。

資料 調査項目

Q1 貴学では、カリキュラム(正課)の中に国際福祉に関する科目を開設していますか。

※ 国際福祉に関する科目とは、次のいずれかに該当するものを指します。

- ① 海外における福祉課題(途上国における貧困、海外の福祉事情等)に焦点を当てた科目
- ② 国内におけるグローバルな福祉課題(在日外国人、中国帰国者等が抱える福祉課題、多文化共生等)に焦点を当てた科目
- ③ 国境をまたぐ福祉課題(戦争、平和、環境等)に焦点を当てた科目

1. 開設している(Q2へ進んでください) 2. 開設していない(Q12へ進んでください)

1. 開設している

※ 開設している科目ごとに、科目名、配当年次、必修・選択の別、単位数、授業形態、開設年度、開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称、シラバスのURLをお答えください。

Q2 開設科目1

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスのURL

Q3 開設科目2

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)

- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q4 開設科目3

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q5 開設科目4

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q6 開設科目5

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称

- ⑧ シラバスの URL

Q7 開設科目6

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q8 開設科目7

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q9 開設科目8

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q10 開設科目9

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

Q11 開設科目 10

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 必修・選択
 - a. 必修 b. 選択
- ④ 単位数
- ⑤ 授業形態
 - a. 講義 b. 演習 c. 実習 d. その他(具体的に)
- ⑥ 開設年度
- ⑦ 開設している学部、学科、研究科、専攻等の名称
- ⑧ シラバスの URL

***Q13へお進みください。**

2. 開設していない

Q12 今後開設予定はありますか。

- a. ある(開設予定年度をお答えください) b. ない c. 分からない

Q13 カリキュラム(正課)以外で国際福祉に関する教育プログラムがあれば、その概要をお書きください。(自由回答)

Q14 国際福祉に関する教育についてのご意見等がありましたらお書きください。(自由回答)

Q15 本アンケート調査に対するご意見、ご感想等がありましたらお書きください。(自由回答)

Q16 回答者の属性をお答えください。

- ① 所属
- ② 職名
- ③ 氏名(任意)

**「2017 度一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校における
国際福祉教育に関するアンケート調査」 報告書**

<執筆担当>

阪口春彦（龍谷大学短期大学部／日本ソーシャルワーク教育学校連盟国際関係委員会委員）

2019 年 1 月発行

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

〒108-0075 東京都港区港南四丁目 7 番 8 号
都漁連水産会館 5 階

E-mail: jimukyoku@jaswe.jp

TEL: 03-5495-7242 FAX: 03-5495-7219

URL: <http://www.jaswe.jp/>
